

間違いだらけの台湾認識 (1)

## 台湾への正確な認識を育むために

理事 多田 恵



連合国が台湾を占領した式  
(1945年10月25日の降伏式  
典には四カ国の国旗が掲示)

台湾への正確な認識を阻んでいるのが、第一にシナ人によるプロパガンダであり、台湾の地位について明確にすることをためらう国際社会の姿勢、そして長く国民党の思想統制を受けた台湾で台湾人史観がまだ十分に復権していないためである。

### 台湾はもともとシナではない

豊臣秀吉が「高山国」に国書を送り、明史には外国として台湾（雞籠山）が登場する。オランダ、スペイン、鄭成功による支配を受けた台湾は古来シナの領土ではなかった。オランダ時代にはアルファベットによるシラヤ語表記が定着した。台湾の非シナ性を示している。

鄭氏政権の後、清が支配を及ぼすが全島には及んでいない。一八六七年、台湾南部十八蕃社を率いる大頭目トウキトクと米国との条約、牡丹社事件への清国の対応に示されている。ただ、台湾出兵後の処理において日本は台湾を清の領土と認めた。

### 日本は台湾を「占領」していない

朝鮮を巡って起きた日清戦争の結果、台湾は日本に割譲された。自国の領土に軍隊を派遣することは占領ではない。また軍政も敷かれていない。存在が未確認である「カイロ宣言」では日本が台湾を「盗取」したとしているが、これは連合国の「領土不拡大方針」との矛盾回避のためのでっちあげにす

ぎない。国民政府はこの立場を徹底するために、「日治（日本統治）」という用語を「日拠（日本占拠）」と呼ぶよう統制を行った（「台湾省新聞處」一九五一年十一月十五日の通知）。

### 日本は台湾を「返還」していない

大東亜戦争での日本の降伏を国府は「無条件降伏」だと宣伝している。軍隊は無条件降伏で解体されたが、国家は無条件降伏ではない。その後、連合国軍を代表して台湾を占領した陳儀・「台湾省行政長官兼警備総司令」は台湾がシナに返還されたと宣伝し、台湾人および国際社会を欺こうとした。台北での降伏式典の写真や文書を見れば、日本軍がシナではなく連合国に対して降伏したことが示されている。

その後、サンフランシスコ平和条約で日本は台湾への権利をはじめて放棄した。国府と結んだ日華平和条約でもこれは認められている。台湾は決して「返還」されていない。